

熊野の
ホコから

怪熊野

「木偶(でく)茶屋」
其の(一)



和歌山大学
システム工学科
システム学
環境システム
中島敦司教授

安倍晴明 隣は式神(画・菊池容齋 パブリック
ドメイン)



といつて長さ五六
十間幅四五間の
馬場のような平
坦な道がある。今
も人が修めていな
いのに一切草木が
生えず、両側に
大木が生え並ん

でいる。誰も乗らな
い白馬がしばしば現
れて馳(は)せ行く。
また木偶(でく)茶
屋といつて人がたま
たま野宿すれば夜
中にたちまち小屋
が立ち、人形芝居が
盛んに催され、夜が
明けると忽然(こつ
ぜん)と消失する所がある。晴明がここに来て笠を
樹に掛け塔に擬して祈つてからその怪は長い間止ん
だという。木偶とは、木彫りの人形のことだ。
笠塔山の妖怪は、清明によつて麓の龍神村谷口の
猫又滝に封じ込められたという話も残っている。妖
怪は豪雨を降らせて清明が山に入れないようにす
るなど、妖力で激しく抵抗するが、三日三晩の祈
禱(きとう)によつて滝に封じ込まれた。清明は滝に
梵字(ぼんじ)を刻み妖怪の再来を防いだという。
以前の天狗の解説の際にも触れたが、清明は災害
だけでなく、ヒルの被害、イノシシなどの獣害まで
を無くす祈禱を谷口で行っている。このため、谷口
には今も晴明神社があり、平安の時代より住民に
大切にされている。



笠塔山は紀伊半島の中でも特に貴重な自然がある山として公園化されている。入山には許可が要る。

同じような祈禱の話は、中辺路の野中、本宮の
皆地でも今に伝わっている。笠塔山の木偶茶屋の話
と関連して、荒俣宏は『帝都物語』の関連作品であ
る『帝都物語異録』の中で『龍神村木偶茶屋』とい
う短編を発表している。帝都破壊を目論(もくろ)む
魔人、加藤保憲の出生に秘密を知る上で重要な
内容を含んでいることからファンの中では有名とな
っている。
それにしても、真夜中の人気の無い山頂に、いき
なりにぎやかな人形小屋を登場させて人を惑わす
とは、アヤカシモノも意地が悪い。油断させておい
て喰つてやろうとでもしていたのだろうか？笠塔山
は紀伊半島の中でも特に貴重な自然がある山とし
て公園化され、清明が封じ込めたおかげか妖怪も
出なくなつたようで、今では登山ファンにぎわつて
いる。

中島敦司(なかしま かつし)教授プロフィール
昭和38年、岐阜県生まれ。三重大学大学院生物資源研究科博士後期課程を修了。平成8年から和歌山大学システム工学部講師、12年から助教授。19年から教授。専門は森林生態、自然再生、砂漠緑化、海岸林再生、地域資源、地球温暖化、自然エネルギー、民俗(妖怪、伝承)。NPO活動にも力を入れる。熊野方面には年間30〜50日は訪問し、研究する。

